

## 平成 30 年度援護関係予算概算要求の主要事項

	【29 年度予算】	【30 年度要求】
援護関係予算総額	26,117 百万円	→ 24,809 百万円
<b>1 援護年金等</b>	<b>10,436 百万円</b>	<b>→ 9,316 百万円</b>
	(受給人員 5,884 人 → 5,004 人)	
<b>2 遺骨収集事業等の推進</b>	<b>2,443 百万円</b>	<b>→ 2,503 百万円</b>
(1) 硫黄島遺骨収集事業 ・外周道路外側等の掘削経費等	1,396 百万円	→ 1,374 百万円
(2) 南方・旧ソ連地域遺骨収集事業	576 百万円	→ 802 百万円
ア 現地調査 ・派遣班数増加に伴う増	176 百万円	→ 284 百万円
イ 遺骨収集 ・派遣班数増加に伴う増	273 百万円	→ 391 百万円
ウ 法人運営経費	127 百万円	→ 127 百万円
(3) 海外公文書館の資料収集 ・集中的な取り組み期間の終了に伴う減	342 百万円	→ 73 百万円
(4) 遺骨鑑定体制の強化 ・DNA 鑑定機関の増強等に伴う増 ・遺骨鑑定人の派遣体制の構築に伴う増	108 百万円	→ 219 百万円
(5) 遺骨・遺留品伝達 うち、遺留品調査の迅速化に係る経費	21 百万円	→ 34 百万円 13 百万円
<b>3 戦没者慰霊事業等</b>	<b>575 百万円</b>	<b>→ 593 百万円</b>
(1) 全国戦没者追悼式挙行経費	151 百万円	→ 151 百万円
(2) 慰霊巡拝等	424 百万円	→ 442 百万円
ア 慰霊巡拝	87 百万円	→ 96 百万円
イ 政府建立慰霊碑の補修等	52 百万円	→ 61 百万円
ウ 海外・国内民間慰霊碑の管理	26 百万円	→ 26 百万円
(ア) 海外民間建立慰霊碑	9 百万円	→ 10 百万円
(イ) 国内民間建立慰霊碑	16 百万円	→ 16 百万円
エ 慰霊友好親善事業	259 百万円	→ 259 百万円

<b>4 昭和館・しょうけい館事業</b>	<b><u>919百万円</u></b>	<b>→</b>	<b><u>670百万円</u></b>
（1）昭和館	743百万円	→	480百万円
ア 昭和館の運営に係る経費	454百万円	→	480百万円
イ 昭和館の防災機能強化に係る経費【前年度限り】	289百万円	→	0百万円
（2）しょうけい館の運営に係る経費	176百万円	→	190百万円
<b>5 戦争の経験の次世代への継承（再掲）</b>	<b><u>31百万円</u></b>	<b>→</b>	<b><u>32百万円</u></b>
（1）証言映像の収録（戦傷病者、中国残留邦人等）	13百万円	→	13百万円
（2）戦後世代の語り部の育成等	17百万円	→	18百万円
<b>6 中国残留邦人等の援護等</b>	<b><u>10,770百万円</u></b>	<b>→</b>	<b><u>10,898百万円</u></b>
（1）中国残留邦人等に対する支援等	10,562百万円	→	10,675百万円
ア 支援給付の実施等	10,538百万円	→	10,641百万円
イ 中国残留邦人等の介護に係る環境整備	24百万円	→	34百万円
（2）抑留者関係資料の取得及び特定作業関係	160百万円	→	162百万円
（3）戦没者等援護関係資料の移管・整備	49百万円	→	61百万円

※ 百万円単位で四捨五入しているため、各欄の増減が一致しない場合がある。